



新緑の季節になりました。ゴールデンウィークも終わり、運動会の練習も始まりました。新たな学年での生活にもそろそろ慣れてきた頃でしょうか。

四中図書館は5月から 月・水・金 が開館日となります。疲れたときは、図書館を利用して読書でリフレッシュしてみませんか。たくさんの本がみなさんを待っています。

5月生まれです！



レイチェル・カーソン

1907-1964

アメリカの海洋生物学者で、作家としても活躍しました。『沈黙の春』という作品で、当時使用されていた農薬が引き起こす深刻な環境汚染を世に知らしめ、大きな反響を呼びます。

遺作となった『センス・オブ・ワンダー』は「神秘さや不思議さに目を見はる感性」を生涯持つことの大切さを説いた、写真入りの美しい本です。四中図書館でも所蔵しています。ぜひ読んでみてくださいね。

(1907年5月27日生まれ)

今月のおすすめ本



『彼女たちのバックヤード』

森埜 こみち：作 913モ

詩織・璃子・千秋、3人それぞれの立場から紡がれる物語。お互いの何気ないひとことで傷ついたり傷つけてしまったりするのですが、彼女たちはしっかりと自分の問題に向き合い、なんとか前に進もうともがきます。大人の都合でどうにもならないことがあっても、自分なりに努力や工夫をこらす様子はたくましく、またそんなことをやってのける彼女たちが羨ましくなってきます。



『遊園地ぐるぐるめ』

青山 美智子 田中 達也：著 913ア

遊園地で楽しむ人、働く人、営業をかける人、さまざまな人物が登場します。最初の「メリーゴーランド」の章を受けて次の「回転マシン」へ読み進めると、あとはもうあっという間に読み終わってしまいます。遊園地がなぜ「ぐるぐるめ」と呼ばれているかも気になりつつ、ラストの「観覧車」でほっこり。遊園地に行きたくなる1冊です。

『下積み図鑑 すごい人は無名のとき何をしていたのか？』

真山 知幸：著 280マ

誰も名前を聞いたことがある偉人たちが、どのようにして立ち上がる壁を乗り越えてきたか、が記されています。左で紹介している「レイチェル・カーソン」については、文学も科学も大好きだったレイチェルが、どのようにして独自の道を進むことになったか、などを知ることができます。将来を考える時、参考になるかもしれません。

俳句はいかが？

目には青景山ほどときぞす初鐘 はつがね

山口素堂

山口素堂は江戸時代前期の俳人で、松尾芭蕉とも親交がありました。この俳句は「初物」好きな江戸の人たちにとっても愛されたそうです。

新茶の香真昼の眠気転したり

小林一茶

新茶は八十八夜前後に摘み取った新芽で作られます。一茶は、眠気も覚めるほどのよい香りだと感じたのでしょうか。

